



急性期脳梗塞を対象とした再生医療治験

今回は、当院の脳神経外科において実施されている再生医療治験についてご紹介します。

患者の皆様へ

この治験は世界が注目する再生医療治療です。脳梗塞の患者さん全員が恩恵を受けられるわけではありませんが、一部の患者さんには大きなメリットが期待できます。このような世界の最先端の治療の枠組みのひとつに徳島大学病院が参加できることは大きなチャンスです。2019年12月までの間に6例の実施を目指しています。この治験をスタート地点として、あらゆる脳卒中患者さんが恩恵を受けられるような再生医療の開発も期待されます。



■説明は、
脳神経外科 / 教授・科長
高木 康志 (たかぎ やすし)
臨床試験管理センター/治験コーディネーター・看護師
松下 明子 (まつした あきこ)
■問い合わせ先/ 臨床試験管理センター
Tel.088-633-9294 (平日8:30~17:00)

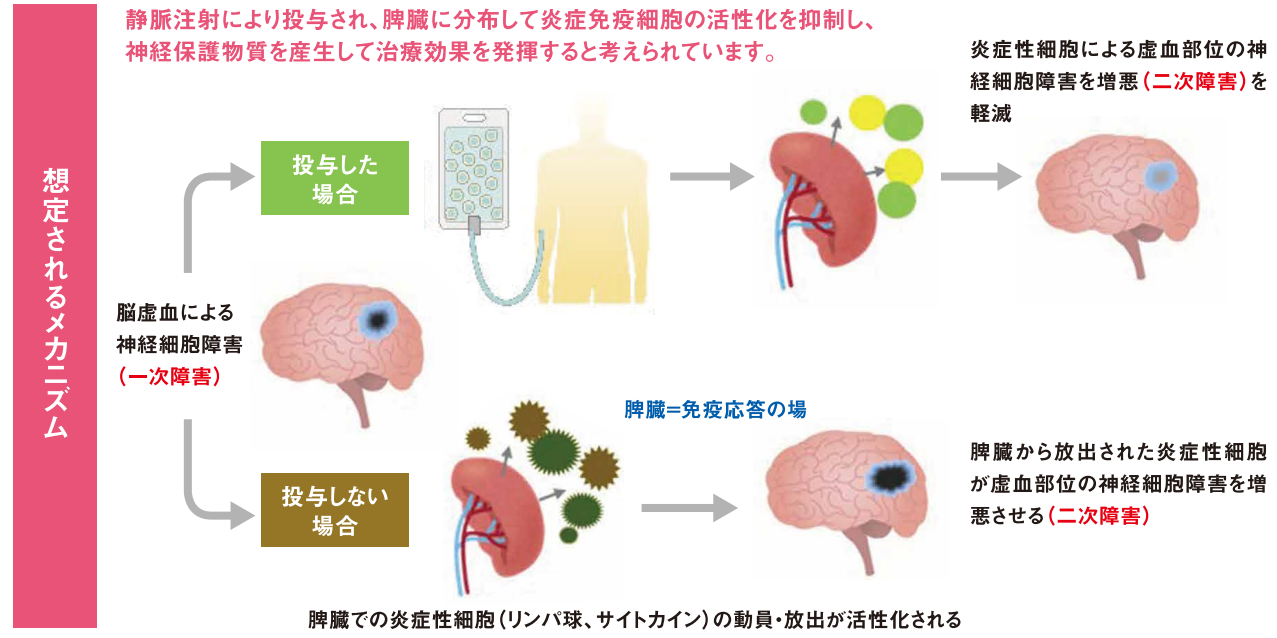
脳梗塞 ~突然やってくる命の危機~

脳梗塞は、脳内の動脈が何らかの原因で詰まる等の血行障害を起こすことにより、脳に酸素や栄養が行き届かなくなることで様々な症状を引き起こす脳卒中のうちのひとつです。脳梗塞には大きく「アテローム血栓性脳梗塞」「ラクナ梗塞」「心原性塞栓症」の三分類があります。そのどれもが発症すると命に関わる可能性がある危険なものです。また、手足の麻痺や言葉がうまく出ない等の後遺症が残る可能性もあり、患者さんの今後の生活に大きく影響する病気です。

アテローム血栓性脳梗塞	動脈硬化で血管が細くなり、脳へ行く血流が低下したり、できた血栓が飛んだりして血管が詰まって発生する。
ラクナ梗塞	高血圧が原因で脳内の細い血管が詰まっていく脳梗塞。手足のしびれや麻痺などの症状が進行していく。
心原性塞栓症	心臓や頸動脈等の太い血管で生じた血栓が血流に乗って脳内に流れ着き、血管を詰まらせる脳梗塞。症状が重く、命にかかわることも多い。

急性期脳梗塞に対する再生医療がもたらす可能性

現在、この脳梗塞を対象とした再生医療治験が行われています。脳梗塞が発症してから36時間以内に治験製品を投与することで、炎症性細胞を放出する脾臓の活動を抑え、脳虚血を起こした部位の神経細胞損傷を抑制、神経保護物質を産生して治療効果を発揮すると考えられています。これにより後遺症の増悪を軽減することが期待されます。



治験に参加するには

治験の対象となる患者さんには、まず主治医より治験についての紹介があります。本治験に参加するには特定の条件があり、全ての脳梗塞患者さんが当てはまるわけではありません。

- 【参加の主な条件】
- 20歳以上の日本人男女
 - 脳梗塞発症後36時間以内に治験製品を投与できること
 - 大脳皮質に発生した脳梗塞(ラクナ梗塞除く)
 - 脾臓摘出術を受けていないこと
- など